

【論文 (査読付)】

デザイン選考における専門家と市民の関係

- 2025年大阪・関西万博ロゴマークと2020年東京大会エンブレムの比較 加島 卓 1  
参画型の半構成的グループ・エンカウンターが自己と他者に対する態度変容に与える効果(2)  
ーグループ体験による短期的、持続的効果と態度間相互の影響ー 浅井千秋 23  
初期ハーバーマスにおける戦後の理性と社会学 ブロッホ批判を手掛かりに 飯島祐介 61  
適切な内受容感覚の獲得 発達の観点から 中島香澄 77

【研究ノート】

- 日露協定(1896)に対する朝鮮の対応 李 穂枝 89  
南フランス・ガール県東部のロマネスク聖堂(2) 中川久嗣 101  
デンマーク絶対王政中期の社会政策に関する基礎研究(1)  
ーフレデリック4世治世(1699-1730年)を中心にー(上) 佐保吉一 129

【翻訳】

- 鄭勉著「白族と「白蛮」」ー『白族簡誌』の白族系譜構成批判 立石謙次 149  
Charlotte M. Brame 著『ドラ・ソーン(Dora Thorne)』(翻訳・その19) 堀 啓子 178

【研究交流会報告】

横断的な鉱山史研究は可能か

- ーイギリス帝国史およびグローバル・ヒストリーとの連動に向けてー 杉本 浄 185  
中国少数民族の漢字系文字 立石謙次 197  
ギリシャ美術の研究 エーゲ海の壁画からパルテノン彫刻まで 中村るい 201  
東日本大震災後の臨床心理学的支援  
震災により里親となった人のストレスの継時的変化 山田幸恵 209

### 【執筆者】

加島 卓	東海大学文化社会学部広報メディア学科教授
浅井千秋	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
飯島祐介	東海大学文化社会学部心理・社会学科准教授
中島香澄	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授
李 穂枝	東海大学文化社会学部アジア学科講師
中川久嗣	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
佐保吉一	東海大学文化社会学部北欧学科教授
立石謙次	東海大学文化社会学部アジア学科准教授
堀 啓子	東海大学文化社会学部文芸創作学科教授
杉本 浄	東海大学文化社会学部アジア学科准教授
中村るい	東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科教授
山田幸恵	東海大学文化社会学部心理・社会学科教授

### 【編集後記】

東海大学文学部は、2018年度から文学部と文化社会学部の2学部に変更されました。その結果、アジア文明学科と歴史学科東洋史専攻はアジア学科へ、ヨーロッパ文明学科とアメリカ文明学科はヨーロッパ・アメリカ学科へと改編され、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科とともに文化社会学部を構成する学科となりました。

これに伴い、2018年度から新たに『東海大学紀要文化社会学部』を電子版で発行することになり、第1号は2019年2月、第2号は同年10月、第3号は2020年3月、第4号は同年10月に発行されました。第5号となった今号には、論文4件、研究ノート3件、翻訳2件の他、文化社会学部が学部のFD活動の一環として開催している研究交流会で報告を担当した先生方による報告の記録4件を掲載しました。

今号も、コロナ禍で研究活動が大きく制約を受ける中での発行となりましたが、充実した内容となりました。困難な状況にも関わらず、ご投稿いただいた執筆者に感謝申し上げます。

東海大学文化社会学部紀要委員会

委員長 飯塚浩一 文化社会学部広報メディア学科教授、文化社会学部長

発行者 東海大学文化社会学部 飯塚浩一

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

Tel 0463-58-1211 (代)

# The Bulletin of the School of Cultural and Social Studies

Tokai University

Issue 5, February 2021

## 【Articles】

Professional-Citizen Relations in Design Selection 1

: Comparison of the 2025 Osaka-Kansai Expo Logo Mark and the 2020 Tokyo Olympic Emblem

*KASHIMA Takashi*

Effects of Participational Semi-structured Group Encounter 23

on One's Attitudes Toward Self and Others (2)

: Temporary and Continuant Effects by Group Experience and Mutual Influences among Attitudes

*ASAI Chiaki*

The Early Writings of Jürgen Habermas and Sociology 61

as a Condition of Possibility for Reason in Post-war Society

: Focusing on his Critique of Ernst Bloch

*IJIMA Yusuke*

Adequately having one's own Interoception : From the Developmental Perspectives 77

*NAKAJIMA Kasumi*

## 【Research Notes】

Korea's Response to the Russo-Japanese Agreement (1896) 89

*LEE Suji*

Les Églises Romanes dans le Département du Gard 101

; Bagnols-sur-Cèze et ses Alentour.

*NAKAGAWA Hisashi*

Fundamental Study on the Danish Absolute Monarchy in the Period of Intermediate Term (1) -Focused on Frederik IV's Social Policies (Former Part)- <i>SAHO Yoshikazu</i>	129
 <b>【Translation】</b>	
A Translation of Bai People (Baizu) and their Ancestors in Yunnan, China : A Critical Study on the “Ethnic History” in PRC by Jeong Myeon <i>TATEISHI Kenji</i>	149
A Translation of <i>Dora Thorne</i> by Charlotte M. Brame, 19 <i>HORI Keiko</i>	178
 <b>【Research Presentation 】</b>	
To Explore Possibilities of Mining Histories through Cross-Border Perspective : Toward Linkages with Colonial India, British Empire and Global History <i>SUGIMOTO Kiyoshi</i>	185
The Sinicized Scripts of the Minority in China <i>TATEISHI Kenji</i>	197
A Study of Greek Art : From Aegean Painting to the Parthenon Sculpture <i>NAKAMURA Rui</i>	201
Clinical Psychological Support After the Great East Japan Earthquake : Changes in Stress Over Time for Foster Parents Due to the Earthquake <i>YAMADA Sachie</i>	209

# 『東海大学紀要文化社会学部』投稿規程及び執筆要領

## 1. 投稿規程

### 1) 投稿資格について

- ・ 第1執筆者として投稿する資格があるのは、文化社会学部の専任教員及び特任教員とする。なお、学内外の研究者等が共同執筆になることは、これを妨げない。
- ・ 文化社会学部の専任教員及び特任教員以外の者が投稿を希望する場合は、投稿を認めるか否かを文化社会学部紀要委員会において審議し、文化社会学部長の承認を得て結果を本人へ連絡する。

### 2) 投稿原稿について

- ・ 未公開の学術論文、研究ノート、調査研究報告、その他（訳註、解題、翻刻、翻訳、教授法研究、等）の投稿を受け付ける。
- ・ 投稿を希望する者は、文化社会学部紀要委員会から周知された申込要領に沿って、申込〆切日までに投稿申込を行う。
- ・ 投稿申込を受領された者は、投稿〆切日までに、文化社会学部紀要委員会から周知された執筆要領及び提出要領にしたがって原稿を執筆・提出する。
- ・ 文化社会学部紀要委員会は、投稿原稿の採否・掲載ジャンル・掲載順等を決定し、必要に応じて修正等を依頼する。
- ・ 掲載が決まった原稿が多数の場合、一部の原稿の掲載を次号へ送ることがある。

### 3) 著作物の電子化と公開について

- ・ 掲載された著作物の著作権は、執筆者が有する。
- ・ 掲載された著作物の執筆者は、当該の著作物に関する複製及び公衆送信を文化社会学部紀要委員会に対して許諾したものとみなす。同委員会が複製及び公衆送信を第三者へ委託した場合も同様とする。
- ・ 掲載された著作物は、東海大学機関リポジトリを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

### 4) その他

- ・ 抜刷の制作を希望する場合は、執筆者がその実費を負担する。
- ・ 掲載された論文等を自身の著作等に転載す

る場合は、文化社会学部紀要委員会へ連絡する。

## 2. 執筆要領

### 1) 形式

- ・ 使用言語は、原則として日本語または英語とする。（以下、使用言語が日本語の場合を想定して記載する。日本語以外の場合は、日本語での執筆要領に準じるものとし、詳細は文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 原稿はテンプレートに入力し、電子データを提出する。
- ・ 原稿は縦組みでも横組みでも可とする。
- ・ 注は本文末尾または章ごとに掲げる。本文末尾に掲げる際には、番号は全体を通し番号とする。
- ・ 原稿には通し番号（ページ数）を付す。
- ・ 図及び表はテンプレートに沿って本文中に入力する。また、図及び表には見出し（例：表一、図一、など）を付す。
- ・ 論文及び研究ノートは、英文タイトル、執筆者名の英文表記、Abstract（単語数100語程度）をテンプレートの該当箇所に記載する。  
※ 執筆者名の英文表記は、原則として IIZUKA Koichi の表記方法とする。

### 2) 分量

- ・ 原則として総字数は3万2000字以内（注を含める）とする。（総字数が極めて大きくなる場合には、扱いについて文化社会学部紀要委員会と協議する。）
- ・ 図及び表は総字数には含めない。

### 3) 体裁

- ・ 原稿の中で表記を統一する。
- ・ 原稿の中で代名詞、副詞、接続詞、助動詞、助詞の表記を統一する。  
例) 敢て=あえて、未だ=いまだ、及び=および、のように、原稿の中で表記が分けないようにする。
- ・ 和文は全角、欧文は半角で記述する。

※本規程及び要領の制定・改訂・廃止は、文化社会学部教授会の承認をもって行う。

(2018年11月21日制定)